

市長タウンミーティング概要（杉久保コミュニティセンター）

令和6年3月23日（土）16:00～17:10

○意見交換

〔質問〕

大谷・杉久保都市公園整備事業を引き金に、海老名サービスエリアの利用を促進する施策を講じるなど、交流人口や産業人口増加、地域の発展に繋げていただきたい。併せて杉久保地区全体の施設更新についても取り組んでほしい。

〔回答〕

上りの海老名サービスエリア利用者の17%が市外利用者である。大谷地区には駐車場が多くある。しかし、大谷近隣公園と下りの海老名サービスエリアは道路で仕切られておりサービスエリアの出入りができない欠点があり、連携した活用が図れないため、中日本高速道路株式会社と協議をしている。協議の中で交流人口についても整理していきたい。

地域の発展に向け、地権者との調整も引き続き実施していく。一部の土地は民間企業が所有しており、今後協議する予定である。

〔質問〕

海老名駅前のにぎわいと比べて、杉久保南部地区は取り残されていると感じる。生活に必要なスーパーやドラッグストア等がなく坂道も多いため、高齢者の外出が難しい。You Busの実証実験を行うとのことだが、杉久保での運行はあるか。店舗の誘致や高齢者の移動手段について検討していただきたい。

〔回答〕

海老名駅を中心とした開発が進み、市の税収を上げることで杉久保南部地区の発展につなげていきたいと考えている。

杉久保南部地区の交通対策については、大きな課題として認識している。デマンド型交通を今後実証運行していく予定のため、皆様から様々な意見をいただきたい。

店舗の誘致について、杉久保南部地区は民間企業が出張販売を実施しており、市で燃料費の補助を行っている。買い物支援については、You Bus等の移動支援と併せて検討していきたい。

〔質問〕

国を挙げて不登校支援を進めているが、内容等は精査できておらず、教育現場とのずれが生じ、当事者等が相談できる機関が少ない。小学校や中学校の義務教育期間だけではなく、その後の進学や就労サポートができて初めて当事者の自立と幸せにつながるのではないか。海老名市として、子どもが自立していくために義務教育後の支援拡充について積極的に取り組んでいただきたい。

〔回答〕

海老名市の教育委員会は、モデル地区として神奈川県教育委員会とともに障がい者だけではなくすべての人を受け入れるインクルーシブスクール事業を進めていくこととなった。今後、多額の費用が必要と考えられるため、神奈川県とハード面及びソフト面の両面から環境を整えていきたい。フリースクールやオンラインスクール等を様々な団体が実施しているため、市として補助等の支援をしていき、不登校にならない、あるいは不登校になっても学びの場を提供できるようにしたい。

〔質問〕

平成 30 年からマンションが約 1 万戸建設され増え続けている中、マンションの老朽化や居住者の高齢化が社会問題となっている。他市でマンションの老朽化対策の補助制度を実施していると新聞に掲載されていたが、海老名市は今後、老朽化対策等の補助金を考えているか。

〔回答〕

マンションの耐震化診断への補助は行っている。改修についても、今後検討していく。一般家庭の耐震診断や工事についてはすでに補助制度がある。

〔質問〕

阪神淡路大震災のとき市役所からの情報は避難所に届いていたため、避難所を離れることができなかった。また、能登半島地震では人手不足により在宅避難者に物資を渡すことができなかったと報道されていた。海老名市の在宅避難者への対応について伺う。

〔回答〕

海老名市は災害時の食糧を相当数保管している。在宅避難者は安全であれば、最寄りの避難所に取りに来ていただくことになる。

能登半島地震の件については、物資運搬の人手が不足していたため避難場所へ来ていただくよう呼びかけていたが、過疎地に住む人が多く、遠いということから避難場所へ行かない人がいた。

海老名市は面積が狭く過疎地もないため、3つの防災倉庫を拠点に物資の配布を行っていく予定である。

自治会館も災害時では1つの避難場所として使用したいと考えている。今後、自治会館の耐震及び維持管理の補助も検討していく。

〔質問〕

大谷・杉久保地区公園整備事業について、事業費5,800万円の使い方について伺う。また、看板等が設置されていないため、当該事業について知らない近隣住民が多いのではないかと。周知を実施していない理由を伺う。また、公園整備にはどのくらいかかるのか。

〔回答〕

当該事業の令和6年度事業費5,800万円は、基本設計に使用される。現段階で土地の買収が終わっていないため、地域への周知に係る看板等の設置はできない。基本設計が固まり周知できる段階になったら適切に対応する。

総額については、用地買収や移転に伴う費用、整備等により多額の費用がかかるが、現段階では、はっきり固まっていない。しかしながら、事業については土地の特徴を生かし、できるだけ費用がかからない方法で整備を進めていく予定である。

〔質問〕

杉久保地区から海老名駅までのバス代が往復で620円かかる。現在、相鉄バスが「ほほえみ会員証」として5,500円の割引乗車券を発行している。海老名市において、このほほえみ会員証に対する助成をしていただけないだろうか。

〔回答〕

You Busのルートについては、様々な検証をしながら進めている。コミバスとの関係もあるが、杉久保南部地域の課題も受け止めたので、順次進めていきたい。乗車券の補助については、ここではすぐに答えられない。市でそのような補助を行うと、バスが通っていない地区との平等性が欠けてしまうことから現段階ではご意見として承る。しかしながら、デマンド型交通の実証運行も始まるので、今後も皆様からのご意見をお聞きしながら進めていきたい。

〔質問〕

高座クリーンセンター環境プラザについて、様々な施設があるにも関わらず、市民への認知度が低いと思う。文化会館や図書館と同じくらいの認知度になるよう周知をお願いしたい。車でないと行きづらいという点もあるが、より多くの市民に利用してほしい。

当該施設は、子どもたちに身近な環境問題を学んでもらうために最適な場所であると考えます。当該施設で環境問題の講演やサミット、イベント等の開催を提案する。

さらに、当該施設は太陽光パネルによる電力供給を行っており、災害時に役立つように思う。緊急時における当該施設の利用計画があれば伺う。

〔回答〕

高座クリーンセンター環境プラザは市の施設ではないが、市も組合の構成員であり、PRについては課題として認識している。

当該施設は災害時の利用を想定した設計となっているため、電気等の活用も考えていきたい。